

おおす 大須商店街 (大須商店街連盟)

愛知県名古屋市

若手の積極的な参加による「大須らしい」インバウンド需要の取り込み



取組の背景

全体の売上が伸び悩む中で、インバウンド需要に注目

名古屋市商業統計によると、小売業の年間販売額は2007年の3兆2,108億円から2014年には2兆9,565億円まで減少している。大須商店街も様々な取組を行っているものの、全体として売上が伸び悩んでいる。一方で観光庁の調査では、2017年の訪日外国人旅行消費額は過去最高を記録し、インバウンド需要の取り込みは年々重要性が増している。

大須商店街は歴史ある商店街でありながらアニメ・コスプレなどの新しい文化を取り入れることにも積極的であり、外国人観光客等から好評を得ている。近年は特にアジア圏を中心に外国人観光客が増加しつつあることに着目し、商店街マップの多言語化やSNSでの情報発信など積極的なインバウンド需要の取り込みを図ってきた。2018年度に若手を中心としたインバウンド部会を立ち上げ、インバウンドについて研究し効果的な取組を進めることで、外国人観光客を増やし、名古屋の観光名所の一つとして定着を図るものとしている。



外国人観光客向けのインバウンド大須マップ

取組の内容

歴史ある文化資源とアニメなどの新しい文化の共存

大須商店街連盟としては、急速に増加している外国人観光客への対応は必須であるとして、2005年には電子マネー決済端末の導入事業、2006年にはクレジットカード決済端末の導入事業、2013年にはWebサイトの多言語化やフリーWi-Fiの整備事業、2016年からは多言語版商店街マップの作成と、多様な事業に取組ん

できた。ただし、これらの事業は時代の変化によって求められることが変わるため、一度事業を実施して終わりということではなく、今の時代は商店街に何が求められているかを敏感に察知し、可能な限りすばやく対応することをポイントとしている。現在は外国人観光客だけでなく、大須の利用者に多い若者についても、キャッシュレス決済や、より使いやすいフリーWi-Fiが求められているとして、キャッシュレス決済の導入事業を進めている他、フリーWi-Fiの改善について検討を続けている。

また、2018年度には中小企業庁の地域文化資源活用空間創出事業に採択され、大須観音、万松寺といった歴史ある地域文化資源を活用して外国人向けにイベントを企画したり、既存の祭りについても外国人向けのガイドブックを作成した。

最近ではアニメやコスプレなどのサブカルチャー的な新しい文化の要素も加わり、新しい大須と昔ながらの大須が共存し、先端性、流行性、新しさと不易(変わらないこと)が混在する「ごった煮の街・大須」の魅力を更に高める努力をしている。

事業の財源については、各種祭りにおいて企業の協賛を募っている他、商店街マップに企業広告を掲載することで一部を賄っている。また国や自治体の制度を積極的に活用することで、自主財源だけではできないハードの整備や、継続的なイベントの実施を可能にしている。



ゆかたレンタルで大須散策を楽しむ外国人

取組の成果

若手中心のインバウンド部会の立ち上げ

大須商店街連盟では毎年何度か通行量調査を実施

している。2017年度は前年度に比べて110%(18,806人/日)と大幅に増加した。また歩行者通行量調査以外にも、毎年商店主向けにイベントについてのアンケート調査を実施しており、イベントによって来店者数や売上が増減したか等、個店への効果についても把握に努めている。商店主向けのアンケート調査の結果、売上が増加、もしくは少し増加したとする回答割合は、2015年度:46.7%、2016年度:20.0%、2017年度:23.5%と前向きな回答となっている。

これらの指標をインバウンド事業の改善に活用するために、2018年度に大須商店街連盟を組織する8商店街から、最近の事情に詳しいと思われる若手を中心としてインバウンド部会を立ち上げて評価・改善に取り組んでいる。

実施体制

人員体制としては専門の部会であるインバウンド部会を立ち上げた他、イベントの実働人員として毎年ボ

ランティアの募集を行っており、商店街の外からの人材を活用している。また大須商店街連盟では「大須案内人」という制度を実施しており、大須に詳しい地域住民や外国人をボランティアとして採用し、休日に観光客の案内を任せている。

更に若手会員を中心とした委員会で商店街の将来計画を作成・共有している事や、毎年実施している大規模な祭りでは実行委員長に30代～40代の会員を任命している。若いうちから商店街活動に携わることは将来の役員の育成に繋がり、多くの商店街で課題になっている役員の高齢化問題の解決策となりえる。



大須好きのスペシャリスト達による「大須案内人」

キーパーソンからのコメント

起業家のチャレンジを促し、賑わい創出へ

大須は伝統と新しさが混在する街です。この「ごった煮」的な面白さが多く、若者から高齢者、更に外国人のお客様の来街につながっています。訪れた人が散策しやすいよう「多言語対応の大須マップ」を作ったり、「大須案内人」を設けたりとおもてなしにも力を入れてきました。

商売したい人にとっても魅力的な土地となっており、年間5%～7%の店舗が入れ替わり空店舗はほとんど

ありません。絶えず起業家の方が出店しチャレンジして失敗したら次が変わる、その新鮮さが賑わいにつながっています。

インバウンド部会を立ち上げましたが、若手が中心なのでスピードも速いです。最近はキャッシュレスを検討してます。外国だけでなく、日本中の皆様にもお越しいただけるよう努力していきます。



大須商店街連盟
会長
堀田 聖司

商店街の概要

大須地区は江戸時代には大須観音の門前町として発展し、「大須」という地名も大須観音が由来となったと言われている。戦争による被害や、市電の廃止などにより一時はシャッター街となってしまうこともあったが、店主たちの努力により、現在では地区内全体で約1,200の店舗を有する、名古屋市でも有数の商店街となった。

大須商店街連盟は地区内8つの商店街によって組織されており、商店街は広範囲にわたるアーケードと、個性的で多様な店舗を特徴として、若者から高齢者、国内外の観光客まで幅広い人気があり、特に毎年実施している大須春まつり、大須夏まつり、大須大道町人祭りでは、広い商店街が来街者で埋まるほどの盛況を得ている。

- 所在地 愛知県名古屋市中区大須
- 人口 約232万人(名古屋市)
- 電話/ 052-261-2287
- FAX/ 052-241-6222

- URL <http://www.osu.co.jp/>
- 会員数 416名
- 店舗数 1,166店舗

- 商店街の類型 観光型
- 主な客層 学生・若者、高齢者/10歳代以下、20歳代